

TENDAI +Links No.4

生涯教育専攻 子育て応援プロジェクト通信

わくわくがカタチになる！
ものづくり教室

Project for
Community-based
Childcare Support



もくじ

出会いをつなかりに

森 祐美 1

SCENE.6 第3回パパスクール

ものづくり教室

笑顔あふれるものづくり教室 三鬼 司 4

タイトル 上田 新平 11

SCENE.7 スタッフミーティング

何がコミュニケーションを

広げるのか 福井 隆太 15

編集後期

(巻頭言) 出会いをつなぐに

天理市健康推進課 森 祐美

イヤホンを耳にして大学に向かう姿を本通りで見かけました。前だけを向いて猛スピードで自転車を走らせる姿も見かけました。5月に顔合わせのゼミに参加させてもらい、そこから私にはこの街に知り合いが4人も増えました。

市民にとってだけでなく、学生さんにとっても、職員にとっても心地よく住んでいてよかった天理市づくりと一緒に取り組んでくれる仲間を日常に感じられるのはうれしいものでした。

「天理市若者世代男女共同就業促進事業(以下、本事業)」は、事業担当者ですら時々かんでしまうくらい長い名称であるがゆえ、多くの方がその中身を想像しにくいのではないかと思います。「若者世代の夫婦が、夫も妻もコミュニケーションを



第三回パパスクール「ものづくり教室」です。開始前のミーティング、参加学生もこの日の進行を入念にチェック。

密にして家事育児を共同し、若い世代の女性の就業も含めた自分らしい活躍ができる街づくりをしていこう」という目的が、この長い事業名には詰まっています。

この目的は壮大です。そのため、健康推進課だけではミッション達成は不可能と考え、横断的に庁内関係課に横串をさして協働し、関係機関と有機的に連携していく体制で臨むことを前提とした事業となりました。その関係機関の中に、もちろん天理大学も含まれていました。なぜなら、卒業・就職を機に転出していくことの多い天理大学生自身に、若者目線で暮らし続けたいなど思える天理の街づくりを共に考え、実践していくパートナーとなっていただきたいからです。

しかし、こんなざっくりとした、そしてなんだか雲をつかむような事業に賛同して協働してくださる学生・先生はおられるのだろうか? 不安の中で総合政策課へ相談に行きました。しばらくすると天理大学生涯学習専攻の杉山准教授からとても前向きなお言葉をいただきました。その時の嬉しさは昨

日のことのように鮮明に覚えてい
ます。

昨年度は、生涯学習専攻の三年生
を対象にパパティーチャー事業を一
回、実施しました。

本事業では、その取り組みの一つ
である父子体験教室等の参加者の中
から、今まで、そしてこれからも父
というキーワードで暮らしを楽しん
でいるパパを「パパマイスター」と
して認定しています。パパティーチ
ャー事業とは、そのパパマイスター
が一步先行く先輩として、就職・結
婚・育児についての思いや体験を学
生に語る「授業」です。親や教員以
外の大人から育児や結婚のことを直
接聞くのは、学生たちにとってとて
も勉強になったようでした。ただ、
前後の学習があったものの、一回き
りでは「イベント的」となり、本事
業を市域全体に広く啓発していくま
では至らないと感じていました。

そんな中、今年度は一年生を対象
に本事業全体を教材としていきたい
という先生の意向を語っていただき



福井くんが「スタッフミーティングを通じて学んだこと」をレポートしてくれます。ぜひ、ご一読ください。

まし
ました。

六月二十九日、午後一時。上田くん、
福井くん、三鬼くんの発言が止まるこ
とはありませんでした。

この日は、五回シリーズで実施して
いる父子体験教室の三回目。事後カン
ファレンスでの一コマです。三人は父
子の設定遊びをサポートして感じたこ
と、考えたこと、それを踏まえて父子
分離時に参加児それぞれに対しての声
かけや遊びの促し、寄り添いの工夫を
行ったことについて、具体的に自分の
言葉で語ってくれました。また、父親
座談会の輪の中に入り、ファシリテー
ターの発問によってどのような人と人
がつながれていくのか、体感したこと
を話してくれました。

出会ってたった一ヶ月足らずで成長
していかれているという印象を持ちま
した。一か月前の彼らは、杉山先生
のお話しされることや私の「お喋り」を
一言一句洩らさず書こうという勢いで
ノートに目を落とし、メモを取られて
いるように見えました。でも、この日

の事後カンファレンスでは、スタッフの顔を見て熱心に聞き、自分の考えたことを発信している。乾きかけた苔玉がぐんぐん水を吸い込むように、「教えられる人」から「学ぶ人」への進化がなんと早いことか！

自己紹介時に、少し自信なさげに「上手くコミュニケーションがとれるようになりたい」と語っていた貴村さんは、参加者の輪に入るのに時間はかかりませんでした。「お姉ちゃん！お姉ちゃん！」の声に自然に応じ、ともに遊びを楽しみ、そこから子ども有様やこの事業に参加されていない市民へ思いを馳せていました。

きっと彼らは、元々感性豊かなんだろう。これまでも暮らしの中の色々な場面、友達との時間や流れる電車の風景からも気づいたり考えたりして来られたのだろうな、と思いました。



パバスクール終了後のスタッフミーティングです。これからにつながる気づきや学びがたくさん共有されます。

カンファレンスでの発言は続きです。「僕が少し早く来て、ひとしきり体を使って遊んだら、〇〇ちゃんは設定メニューに移行しやすいんじゃないかな。」参加者にとって自分ができることは何だろうと考え発言し、それを討議する。「教室のお手伝い」から「企画・運営スタッフ」への入り口に立られていると感じました。

これからも、教室参加を快く受け入れてくださっている参加親子に感謝しつつ、毎回の教室から感じ取り、気づき、発信し、討議し、生涯教育の理論を獲得していった下さい。

最後に、本事業を理解し、ご協力いただいている天理大学にお礼を申し上げます。また、「公務員ってカッコいいな、保健師の仕事っておもしろそうだな」と思ってもらえるよう、「大人の本気」が伝わるよう私も皆さんから刺激をいただき頑張り続けます。



SCENE 6

第3回パパスクール

ものづくり教室

笑顔あふれるものづくり教室

三鬼 司

六月二十九日に第三回の父子体験教室「パパスクール」が天理「ものづくり教室」が開催されました。今回は、僕と上田君、福井君の三人で参加させていただきました。三回目ということもあり、子どもたちもパパさんたちも、最初から最後までリラックスした雰囲気、とても良い雰囲気だと感じました。

さて、今回は「ものづくり教室」。FJKから木下栄一先生が来てくださり、子どもの感性についてのお話やものづくりの楽しさなど、実際に父子で体感しながら楽しく教えていただきました。

まずは、父子で絵本を楽しむ活動からスタートです。そ

6月29日曜日、第3回目となる父子体験教室「パパスクール」が開講されました。テーマは、親子で遊べる「ものづくり」です。この日の講師は、「サバイバルパパ」ことNPO法人ファザーリングジャパン関西の木下栄一さん。めいっばい体を使った絵本の読み聞かせでウォーミングアップ、子どもの豊かな感性を引き出す折り紙あそび、そして、風船と新聞紙を使った「ウルトラボール」づくりへと続きます。



う、実は前回の「マジックあそび教室」でも絵本の時間がありました。その時は子どもたちが引き込まれるような絵本のお話だったので、今回の絵本は体を使ってパパと子どもたちが一緒になって遊ぶという楽しみ方です。その名も「だっこれっしゃ」！パパと子どもが二人一組になって、子どもは抱っこしてもらいながら絵本のストーリーが進んでいきます。これにはパパさんたちも子どもたちも大盛り上がりで、会場全体が終始笑顔で包まれました！

絵本の読み聞かせというと子どもたちは静かに聞くことができるかな、読んでいるうちに退屈そうにする子が出てこないかな、と気配りや工夫も必要で、実はそう単純なことではないことに僕も気づか



されました。でも、絵本にも静かに子どもたちを引き込んでいくようなものや体を動かしながらダイナミックに読むものなど、本当にさまざま面白い絵本があります。ぜひ、僕も子どもたちに合った絵本を選び、読んであげてみたいと思いました！

次は、子どもの豊かな感性や柔軟な考えに触れようという時間でした。と言っても、することはとても簡単で、まず二種類の折り紙を適当にちぎってみる、そして、そのちぎった紙を並べてみる、その後で何ができたか||ちぎって並べた紙が何に見えてくるかということのを子どもたちに尋ねてみる、というものです。パパさんたちは子どもたちのユニークな返答に驚き、それがきっかけでさらに楽しく

父子のおしゃべりが広がっていききました。さらに驚かされたのは、ここからです。おしゃべりが続いていく中で、子どもたちは足りないと思った部分をペンで書き足したり、二色の折り紙の色合いを考えて裏の白地の部分を使った

り、つくってはしゃべり、しゃべってはつくり、と活動がどんどん続いていったのです。見ている僕たちも、とても驚かされました。プログラム前半、最後の遊びはメインイベントである「ものづくり・工作あそび」です。新聞と風船を使って、

「ウルトラボール」を作りました。これは、次のページの写真にもある通り、風船を新聞紙の棒で包んだようなものです。実際の工作では、ちょっと難しい作業も含まれていて、パパさんや子どもたちが苦戦している様子もありました。しかし、その分、完成した時は大きな喜びもありました。

さて、このウルトラボール。最後は風船がしぼめば捨てなきゃいけないし、かさばるから持ち運んで家の外で使えないなあと思っていたりされませんか？ご安心ください、大

飛び跳ねるウルトラボールをきっかけに、パパさんたちと他の家庭のお子さんとの接点も生まれました。

丈夫です！これ実はスグレモノで、風船のしっぽをしぼっていないんです。新聞が風船を抑えてくれて、空気が強まって逃げないんです。すると、どうでしょう。何と不思議なことには、しっぽをしぼっていない風船がしぼむこともありません。膨らむ前の風船とウルトラボールを折りたたんでおけば、かさばることなく収納でき、遊びたい時に風船遊びができちゃうんです！ぜひ、お子さんたちと工作遊びをしてみてください！

休憩中ですが、子どもたちが自分たちでつくったこのウルトラボールですつと遊んでいて、とてもうれしそうなお子でした。また、おもしろいことに、あちこち飛び跳ねるウルトラボールを受け渡ししているうちに、パパさんたち



ウルトラボールは、ちょっと不思議なおもちゃです。新聞紙で枠をつかって、その中で風船をふくらませるだけで、ボールみたいにポンポン跳ねちゃいます。時には風船らしからぬ動きになり、的当てゲームをすると大盛り上がりです。もちろん、体に当たっても痛くないので安全です。コツは新聞紙の枠づくりなんだけど、これがけっこう難しくて…。ちゃんとおくれたかな？

も他のご家庭ののお子さんたちと接点が生まれ、自然に全体で遊ぶ流れでとても和やかな雰囲気になりました。

プログラム後半は、パパさんチームと子どもチームに分かれ、それぞれ違うことをする時間です。今回、僕と上田くんは子どもチームに、福井くんはパパさんチームに参加しました。

子どもチームはスタッフが人数的に揃っていたこともあり、ある程度自由に、それぞれの子どもたちがしたいこと、楽しいことに寄り添いながら過ごしました。工作あそ

びの延長で吹き矢を作り風船を的にして当てたり、繭状の緩衝材でアリの行列をつくったり、様々な遊びが展開されました。時間が経つにつれ子どもたちの遊びのエリアが広がっていき、パパさんたちが輪になって交流しているすぐ近くにも及びましたが、それぞれの活動に何か支障が生じるということもありません。

近くても遠くても、パパスクールが互いに安心して過ごせる場所になってきています。交流の終わったパパさんたちは、子どもチームに合流し、一緒になって遊んでいたのも

お子さんとパパさん、このパパスクールが互いに安心して過ごせる場所になってきたと感じました。





とても印象的でした。
最後の記念撮影では、パパさん、子どもたち、スタッフの全員が笑顔になれて嬉しかったです！今回のパパスクルではウルトラボールはじめお土産もできました。家に帰って、ママさんにどんな風に見えるのでしょうか。パパスクルからそれぞれのご家庭へと、どのようにストーリーがつながっていくのか。皆さん終始笑顔で帰られたので、その笑顔がご家庭へとどんなつながってほしいという気持ちでいっぱいになりました。

次のパパスクルはお料理教室です！今回のパパさんチームの交流で決まった「コフンカレー」、とても楽しみです！僕は次回も参加予定です。頑張っていこうと思います。



その名は、 天理コフフンカレ

天理のパパならでの

つくって、あそんで、たのしむ

上田 新平

ものづくり。それは、誰もが子ども時代に経験する、楽しいかつ大切な活動です。第10回目となるパパスクールでも、ついに「ものづくり」をテーマに教室が開講されました。講師はFJKの木下栄一さんに担当していただき、全体としてユニークな雰囲気になった、より楽しい教室になったと思います。

自分自身の経験を振り返ると、ものづくりという活動は、これまでのパパスクールの教室と違って講師の説明をしっかりと聞いてついていけないと作品が完成できないような気がして、当初は小さなお子さんにはちょっと難しいかもしれないな、と感じていまし

ありの行進、
おでん屋さん
おみくじ屋さん…

みんなで遊びを広げるぞ！

た。いざ実際に活動が始まると、材料の方に興味津々なお子さんたちやパパと遊ぶのが楽しくてもものづくりが目に入らないお子さんたちが…！しかし、そこはパパさんや木下さんの巧みなフォローによって、自然と子どもたちはものづくりに取り組み始めることができました。

今回つくったのは、ウルトラボールと吹き矢。吹き矢は分かりませんが、「ウルトラボール」ってなに？何がウルトラなんだ？…と、始める前は考えていました。事前に木下さんに聞くとところによると、どうやら新聞をしっかりと折りたたんだもので球状の枠を作り、その中で風船を膨らましてつくるボールだそうです。

説明だけ聞くと「風船だけでもいいじゃん」となりそう

休憩明けはいつもの通り、子どもたちとお父さんたちが分かれての活動に入ります。今回、子どもたちの方はそれぞれの興味や関心を大切に、自由遊びをメインに据えました。遊びがうんと膨らむように、ウルトラボールや緩衝剤、空気でっぼうなど、さまざまな遊び道具も投入されました。一方、お父さんたちはというと、輪になって何やら作戦会議…。実は、第4回のパバスクールで予定されている「お料理教室」でつくるカレーを話し合っています。「天理のパパならではのカレー」である「天理コフフンカレー」、その中身とは!?



ですが、実際つくってみると楽しい上に便利な特徴が。一つ目の特徴は、「ちょうどいい重さ」。風船で遊ぶとわかるのですが、風船は軽いので常にフワフワしています。そこが楽しくもあるのですが、ボールとして遊ぶにはちょっと物足りない時があります。このウルトラボールは、風船に新聞の重量が加わるので、ボールとしてちょうどいい重さになります。万が一の時もケガをするような重さではないので、とっても安全です。

二つ目の特徴が、「持ち運びのしやすさ」です。風船って、なんとなくバッグに入れたら割れてしまわないか不安になったり、そもそもバックに入らないぐらい大きかった



今回はお休みのご家庭もあり、3組7名の父子にご参加いただきました。さあ、次回は会場を前裁公民館に移してお料理教室です！

**全五回のパパスクールも、残り二回。
終わりが近づいてくる寂しさも感じ
ますが、全力で楽しみましょう！**

りします。仕方ないから手に
持っていくけど、風に流され
たら拾いに行くのがとても面
倒…。ところが、このボール
は中の風船の口を結ばずに枠
で押さえて固定化していま
す。こうすれば遊び終わった
ら風船をたたんで、それと新
聞製の枠とをバッグに入れる
だけで片付けが済み、しばま
せた状態で持ち帰ることが可
能です。

さあ、ものづくり教室の後
は、お子さんたちとパパさん
たちが分かかれ、恒例のパパ
交流会の時間です。今回、私
は子どもチームと一緒に前半
につくったもので実際に遊ん
でみました。中には自分でつ
くったものにとっても愛着を抱
いてくれている子がいて、と
ても遊びがいを感じました。
今回のように自分でつくった
ものを実際に使ってみて楽し
むという経験は、子どもの成
長にとっても大きな意味
があると思います。

全五回のパパスクールも三
回目を終了し、残り二回とな
りました。パパスクールの終
わりが近づいてくる寂しさも
感じますが、最後まで気を抜
かず、全力で楽しんでいこう
と思います。

何がコミュニケーションを広げるのか

福井 隆太

パパスクールの運営では、各回とも開始前と終了後、スタッフのミーティングが設定されています。開始前は、当日のねらい、進行、各自の役割、運営上のポイントについて全体で共有し、必要に応じて細かな調整が図られます。また、終了後には、その日のパパスクールを振り返って、参加者の様子、良かった点や改善すべき点、感想や次回以降の課題などをスタッフみんなで輪になって話し合います。

第三回のパパスクールの終了後、天理市役所から森さん、児嶋さん、FJKの卜部さん、佐伯さん、天理大学からは上田くん、三鬼くん、僕、杉山先生が輪になって腰をおろし、振り返

りのミーティングが始まりました。毎回、森さんと児嶋さんがコーヒーやお茶を用意してくださり、無事に運営を終えた安心感にほっこりしながら始まるミーティングです。

さて、その中での出来事でした。杉山先生がカメラを取り出して、パパたちが交流する写真を実際に見せながら、今回の活動のワンシーンについて話されていました。

ちょうど、輪になった私たちスタッフは全員、先生が真ん中に差し出したカメラをのぞきこむように身を乗り出し、その様子について語り合い始めました。つまり、カメラ（写真）という「もの」を真ん中にしてコミュニケーションが展開されたのです。「もの」のような「何か」を真ん中に置いてみることで、コミュニケーションに参加



SCENE 7

スタッフミーティング

加する人の意識が、一点に集まったように感じました。

思い返せば、この日のパパの交流においても、とても似たようなシーンがありました。「もの」を介したコミュニケーションです。それは、初回のパパスクールでの交流会にはなかった変化です。

この日の交流では、次回のパパスクール「お料理教室」でつくるメニュー（カレー）について、パパさんたちがアイデアを出し合いました。「天理のパパならではのカレーをつくらう」という企画です。この時、運営側は小さなホワイトボードを用意していたのですが、それを■さんが手にしてください、アイデアを書き込んでいってくれたのです。■さんの牛スジカレーのお話をはじめ、それぞれのご家庭でのカレー文化やこだわりが語られ、交流は大盛

そこにいる人の意識が「何か」に一旦集められ、その「何か」からコミュニケーションが広がっていく。

り上がりでした。そんなコミュニケーションを支えてくれたのが、参加者の意識を集め、アイデアを見える形に残してくれたホワイトボードという道具だったのでは、と思います。

ホワイトボードを真ん中にして身を乗り出してアイデアを話し合っているパパさんたち、カメラの写真を真ん中に身を乗り出して画面をのぞきこんで振り返りをしている自分たち。この二つの姿が重なっているように感じたのです。

さらに思い返せば、子どもたちの遊びにも「もの」は満ちあふれています。第一回のパパスクールでのダンボールあそびで

は、ダンボールという存在が、父と子、子と子、参加者と私たち運営スタッフとを結びつけるきっかけになりました。みんな一緒に協力して大きなトンネルを組み立てたり、会場全体を囲うようにつくったダンボールドミノ。まだ初回とあって緊張感はずいぶんあったが、ダンボールという「もの」を介して仲良く、全体が一つのチームのような形になる瞬間が生まれてきたように感じます。

僕は参加できなかったのですが、第二回でも子どもたちが「カプラ」という積み木で遊んでいました。子どもたちは、積み木でつくった作品を互いに

見せ合ったり、一緒に作品をつくったりしたそうです。この時も「もの」を介して仲良くなるコミュニケーションが生まれていたのでないでしょうか。

もちろん、互いの関係を深めるためには、互いが体を向け合い、互いの顔を見合わせながら、互いのことを語り合うことが大切です。その上で、「もの」を介することにより、そこにいる人の意識が「何か」に一旦集められ、その「何か」からコミュニケーションが広がる。この日、「天理パパならではのカレー」というテーマと「ホワイトボード」という道具によって、パパさんたちの交流に一層の盛り上がり生まれたように。

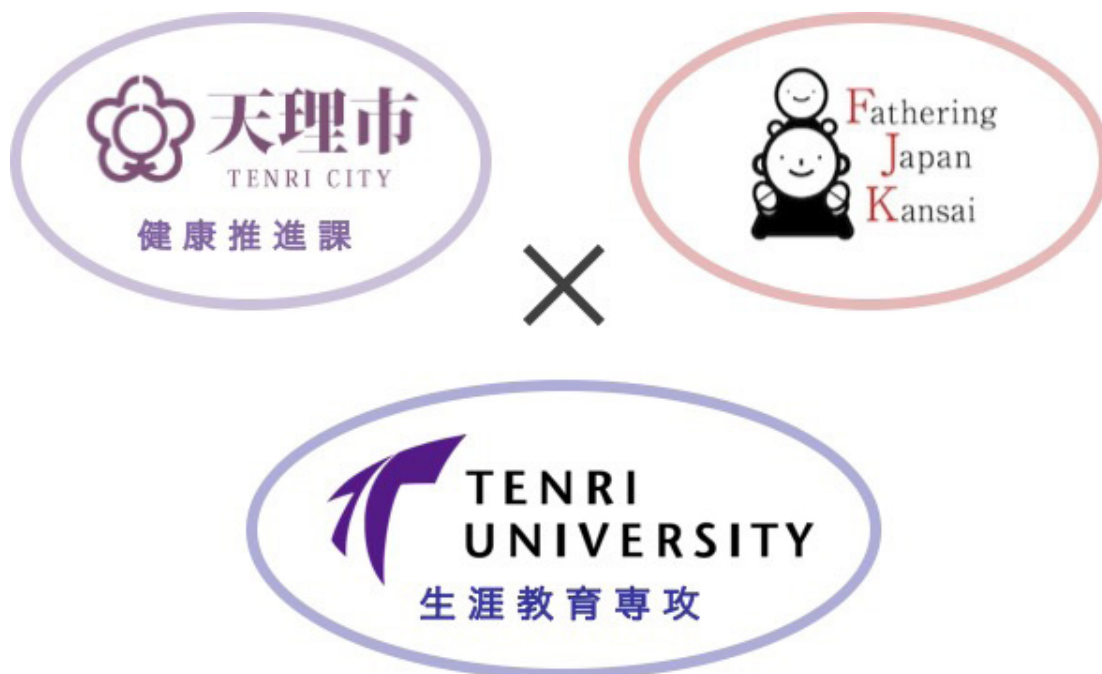
このことが、今回のパパスクールで気づいた僕の学びでした。

早いもので、暦は7月を迎えました。パパスクールが始まった6月初めは初夏を感じる頃でしたが、梅雨が長引いているせいか、本格的な夏の到来をいまいち実感できずにあります。

他方で、パパスクールも回を重ねていく中で、参加者同士のつながりや運営面でのチームワークなど、小さな変化が生まれています。また、お世話になっている学生それぞれの成長には目を見張るものがあり（手前味噌ですが）、そのような変化を振り返って見れば、やはり三ヶ月という時間の流れを確実に感じるわけです。

今号では、いつもお世話になっている天理市健康福祉課の森祐美様から巻頭言をご寄稿いただきました。読んでいて胸が熱くなるお言葉に感謝いたします。森さんには、時には学生と同じ目線で、また別の時には学生の母親目線で、さらに別の時には保健師という地域の専門職の立場から、学生の成長を温かく見守っていただいています。

上田くんが書いてくれた通り、パパスクールも折り返しです。積み重ねの大切さを噛み締めながら、引き続き学生たちと事業に参加し、その様子を本通信でお届けしてまいります。



TENDAI +Links No.4

生涯教育専攻 子育て応援プロジェクト通信

発行日 2019年7月19日
編集・発行 天理大学 人間学部 人間関係学科 生涯教育専攻
協力 天理市健康福祉部健康推進課
NPO法人ファザーリングジャパン関西(FJK)
連絡先 〒632-0032 奈良県天理市杣之内町1050
shimpei@sta.tenri-u.ac.jp (担当: 杉山 晋平)
